

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191200106		
法人名	社会福祉法人 野菊の里		
事業所名	グループホームのぎく「かがやきの里」かみみね		
所在地	佐賀県三養基郡上峰町大字前牟田1896番地		
自己評価作成日	令和1年11月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和1年12月10日	外部評価確定日	令和2年2月25日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>理念である「かけがえのない人生を、生きがいをもって幸せに生きること」を意識して介護をさせていただいています。入居者様の状態に合わせ、本人や家族と相談のうえにプランの作成をおこなっています。1階は歌や塗り絵、体操等のレクリエーションに力を入れ、2階は身体能力の維持、増進のためのリハビリに力をいれています。医療面では常勤看護師が健康管理を行い、異常の早期発見や早期対応、医療的な処置も行っています。また在宅総合診療体制も整えているので医師との連携も行っており、緊急時にも対応できるようにしています。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>新しい管理者が着任して2年目、紆余曲折を経て徐々にケアに対する想いも統一されている。利用者が頻繁に外食やコーヒーを飲みに出掛けられている事や、現場の職員が自由に発言できる環境である事は事業所の誇れる点でもある。また利用者に対し何にでも手を貸すのではなく、まず見守り、見極めながら支援している様子も残存能力の維持へと繋がっている。利用者各々にきちんと向き合い、画一的ではないケアを当たり前の事として努めている。</p>
---

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「すべてのご利用者様に『かけがえない人生を、生きがいをもって幸せに生きること』ができるよう、私たちは力強く支援し続けます。」の理念の基に実践を行っている	「すべてのご利用者様に『かけがえない人生を、生きがいをもって幸せに生きること』ができるよう、私たちは力強く支援し続けます。」の理念の基に実践を行っている	理念は、法人が掲げるもので統一されている。玄関に掲示され訪れる人や職員の目にも止まりやすい。意識付けの方法として決められている事はないが、朝礼時の唱和等は折に触れ行っている。日頃のケアの中で出来るだけ利用者に任せてみようと思える姿勢は、基本である理念が軸となっていることが窺える。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	秋祭りや、隣接の施設への近隣の踊り団体の慰問に見学に行っている。また、社協主体の認知症カフェや町民センターでの催しごとに出掛けたりするが、年間計画ではない。	秋祭りや、隣接の施設への近隣の踊り団体の慰問に見学に行っている。また、社協主体の認知症カフェや町民センターでの催しごとに出掛けたりするが、年間計画ではない。	隣接して同法人事業所があることで地域住民との交流行事等はそちらへ出向き、一緒に楽しんでいる。自治会に加入し、地域の一員という自覚もあり、見守りや連絡を頼める関係も築いている。地域の細かい情報は毎月区長からも届けられているが、近隣住民には広い法人敷地の一角にある施設とだけ映っている感も否めない。今後は回覧版を活用した事業所からの発信も検討している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来てない	出来てない	/	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。頂いた意見を参考に改善を図っている。	2ヶ月に1度開催している。頂いた意見を参考に改善を図っている。	概ね30分程度の会議である。事業所からの報告を済ませると家族との双方向からの意見交換の場となっている。現在、家族の出席者は固定しているが、広く募ることもやぶさかではない。またメンバー同士が顔見知りとなり相談し合う場面もある。外部の人の目が入る貴重な機会と捉え、雑談の中にも参考になる意見があればと臨んでいる。当外部評価の結果はこの会議でも報告する予定である。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議等に出席し、情報交換を行っている。管理者の経歴で市町の職員や医療機関、在宅支援センターとの連携・連絡は取り組んでいる。	地域ケア会議等に出席し、情報交換を行っている。管理者の経歴で市町の職員や医療機関、在宅支援センターとの連携・連絡は取り組んでいる。	管理者は前部署からの縁で行政側の担当者にも顔なじみが多い。相談事などがあれば直接出向き、顔を見て話すようにしている。逆に行政側から問い合わせ等の電話が入ることもあり、互いに実直に対応する関係は築けている。また2か月に一度、介護相談員も訪れており、利用者の話し相手をしながらいを聞き取ってくれる事もある。今後も事業所と利用者の橋渡し役として期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。	取り組んでいる。	年2回、法人内で研修を行っている。職員は身体拘束の内容とその弊害も理解している。現在その事例はないが、仮に、実施する場合は家族の承諾を理由に正当化することなく、止めるための工夫や方法を話し合う事としている。玄関に施錠もなく、職員は常に目配りで利用者の所在を確認している。外へ向かう利用者がいれば暫く一緒に歩き、行動を抑えることはない。安全で安心な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で取り組んでおり虐待の芽チェックリストを毎年記入し、集計を取ってもらっている。	法人で取り組んでおり虐待の芽チェックリストを毎年記入し、集計を取ってもらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員を個別に研修は出せていない。管理者によりミーティングや日々のコミュニケーションで理解し活用できるようにしている。	職員を個別に研修は出せていない。管理者によりミーティングや日々のコミュニケーションで理解し活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来ている。	出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や法人が設立している苦情第三者委員会を活用している。	運営推進会議や法人が設立している苦情第三者委員会を活用している。	家族が遠方に住むケースもあるが、どの家族も月に一度は訪れている。電話で近況を伝えたり、直接会える時には世間話等も交えながら何でも話してもらえるよう努めている。家族との信頼関係には自負もあるが、今回の当外部評価アンケートも真摯に受け止めている。ホーム便りがあればとの意見には毎月の利用料を送付する際に近況を記したメッセージを添える検討をしている。出された意見は前向きに活かす体制の一例である。事業所の敬老会では家族にも案内が出され歓談の場となっているが、更にその機会を活かせるよう期待したい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月フロア一会議と全体会議を開催し職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	毎月フロア一会議と全体会議を開催し職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	職員は毎月2回の会議に出席している。カンファレンスが主となるユニット会議では2時間程を要することもある。日頃から自由に発言し易い職場環境であり、休みの場合は代わりにメモを渡し意見は伝えておく習慣もある。また管理者としては働きやすい職場であるよう配慮も必要で、職員とのコミュニケーションを大切に、休み希望には応えること、定時で終業すること等々を心掛けている。現場の声に耳を傾け、法人の上席にも届けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務時間に希望休暇は聞いている。また、人員に関しても、その都度法人に掛けあっている。	職員の勤務時間に希望休暇は聞いている。また、人員に関しても、その都度法人に掛けあっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での研修会の開催や個別研修の出張を実施している。	法人での研修会の開催や個別研修の出張を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人での研修会の開催や個別研修の出張を実施している。	法人での研修会の開催や個別研修の出張を実施している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とよく話しあい、信頼関係の構築に努め、要望や意向を入所後も引き出せれるように支援している。	本人とよく話しあい、信頼関係の構築に努め、要望や意向を入所後も引き出せれるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の契約時のほか、その都度御家族にも要望や意向を入所後も引き出せれるように支援している。	入所時の契約時のほか、その都度御家族にも要望や意向を入所後も引き出せれるように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に本人の意向・家族の意向を中心として情報収集・アセスメントを行い、担当者会議を開催して対応に努めている。	入所前に本人の意向・家族の意向を中心として情報収集・アセスメントを行い、担当者会議を開催して対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者と職員が共に生活をしていると考え、利用者の自助努力を促しながら、不十分な箇所に関しては職員の声かけや必要な介助を実践している。	入所者と職員が共に生活をしていると考え、利用者の自助努力を促しながら、不十分な箇所に関しては職員の声かけや必要な介助を実践している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族負担を軽減し、家族と本人の絆を大切にしながら、家族と共に本人を支えていく関係性を築いている。	家族負担を軽減し、家族と本人の絆を大切にしながら、家族と共に本人を支えていく関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会が時々あっている。面会しやすい雰囲気作りにも努めている。	知人や友人の面会が時々あっている。面会しやすい雰囲気作りにも努めている。	入居までの人間関係の把握には本人や家族、担当のケアマネジャー、また利用していたサービス事業所からも話を聞き情報を集めている。それらを基に具体的な支援を行っており、盆正月の帰宅や電話の取り次ぎ等が挙げられる。訪問理美容を利用するようになって馴染みの業者に依頼したいと考えている。ハガキや手紙の希望があれば浴うようにもしており、これまでの関係が続くよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や関係性を把握し、孤独感を感じないような交流しやすい場の提供し、利用者同士の関わり合いが多くできるように支援行っている。時々席替えを行い交流の場を増やしている。	相性や関係性を把握し、孤独感を感じないような交流しやすい場の提供し、利用者同士の関わり合いが多くできるように支援行っている。時々席替えを行い交流の場を増やしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの問い合わせがあったときは相談に応じている。	家族からの問い合わせがあったときは相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の意向に沿った支援行っている。日頃より担当者が傾聴に努めている。ユニット職員全員でよりよい介護が出来る様検討している。	個々の意向に沿った支援行っている。日頃より担当者が傾聴に努めている。ユニット職員全員でよりよい介護が出来る様検討している。	隣で話し相手をしている時には想いを話してくれることもある。スキンシップや選択肢を示す問い掛け方も功を奏している。聞き取った事は口頭や記録簿で共有し、そこからケアプランへ反映させた例もある。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設ケアマネージャーによって情報収集をし全職員(他職種含む)への情報提供を行い、情報の共有を行っている。	施設ケアマネージャーによって情報収集をし全職員(他職種含む)への情報提供を行い、情報の共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活支援を通じ、心身状態や現状把握を行い、維持増進に向けた支援に取り組んでいる。(担当者会議やカンファレンス時だけでなく、気づきや案を出している)	日頃の生活支援を通じ、心身状態や現状把握を行い、維持増進に向けた支援に取り組んでいる。(担当者会議やカンファレンス時だけでなく、気づきや案を出している)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成は規程通り、担当者会議・前回プラン評価を経て作成に当たっているが、更にユニットカンファレンスにおいても、利用者個々の課題とケアについて意見を出し合い、介護計画を作成している。	ケアプラン作成は規程通り、担当者会議・前回プラン評価を経て作成に当たっているが、更にユニットカンファレンスにおいても、利用者個々の課題とケアについて意見を出し合い、介護計画を作成している。	ケアプランの設定期間は短期で3か月毎、長期は6か月毎である。その間に変化があれば臨機応変な対応も行っている。本人の希望は日々のケアの中で把握し、家族の要望等は来所時や電話での会話から汲み取っている。ケアプランの実施状況は様式内のカレンダー欄で日々きちんとチェックされている。また利用者毎に決められた担当職員が毎月のモニタリングも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子(24時間)をケース記録に記入し、職員間で情報の共有をおこなっている。また、申し送りとして口頭の引き継ぎも行っている。別に健康管理記録表を使用し、健康面で状態把握できるようにしている。	日々の様子(24時間)をケース記録に記入し、職員間で情報の共有をおこなっている。また、申し送りとして口頭の引き継ぎも行っている。別に健康管理記録表を使用し、健康面で状態把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況変化に合わせて、都度検討し可能な限り、多機能化に取り組んでいる。	その時々状況変化に合わせて、都度検討し可能な限り、多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館利用や買い物等、地域資源に対し、職員一緒に行動している。	図書館利用や買い物等、地域資源に対し、職員一緒に行動している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅総合診療(在総診)や往診を利用し、適切な医療の提供を受けられるようにしている。	在宅総合診療(在総診)や往診を利用し、適切な医療の提供を受けられるようにしている。	入居時に説明を受け、納得して協力医への変更を希望した利用者や、以前からの馴染みの医師の元へ通う利用者もある。それぞれが希望するかかりつけ医となっている。往診も利用しているが、受診へ出向く場合は職員が付き添っている。その受診結果は当日であったり後日のこともあるが、ケース毎の対応である。家族のアンケートでは、殆どが健康面や医療面での心配、不安はないと答えている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の状態観察を行い、状態変化あれば看護師に報告し対処している。必要時は主治医に相談し受診や訪問看護を利用している。	利用者の日々の状態観察を行い、状態変化あれば看護師に報告し対処している。必要時は主治医に相談し受診や訪問看護を利用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは情報交換を行っている。特に地域医療連携室とは、密に関係づくりを行っている。ときどき面会に行き病棟看護師から情報収集も行っている。	医療機関とは情報交換を行っている。特に地域医療連携室とは、密に関係づくりを行っている。ときどき面会に行き病棟看護師から情報収集も行っている。		



自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の日々の状態観察を行い、状態変化あれば看護師に報告し対処している。必要時は主治医に相談し受診や訪問看護を利用している。	利用者の日々の状態観察を行い、状態変化あれば看護師に報告し対処している。必要時は主治医に相談し受診や訪問看護を利用している。	数年前には看取りの経験もあるが、現在は職員の異動や体制の見直し等もあり実績はない。入居時には事業所の方針や指針を説明しており、容態の変化に応じて何度でも話し合いを重ねる事としている。本人や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療機関とは情報交換を行っている。特に地域医療連携室とは、密に関係づくりを行っている。ときどき面会に行き病棟看護師から情報収集も行っている。	医療機関とは情報交換を行っている。特に地域医療連携室とは、密に関係づくりを行っている。ときどき面会に行き病棟看護師から情報収集も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練時には、特別養護老人ホーム野菊の里職員や区長さんと連携を図り、緊急時早期行動ができるように努めている。	火災訓練時には、特別養護老人ホーム野菊の里職員や区長さんと連携を図り、緊急時早期行動ができるように努めている。	避難訓練は年2回、うち1回は消防署の立ち会いもあり、昼間帯に行っている。夜間は想定のみである。隣接する同法人事業所とは備蓄品も含め緊急時の応援態勢が整っており、避難場所となることも家族には周知済みである。訓練は独自に行い、利用者も一緒に避難を体験している。職員は通報装置の使い方を承知しているが、消火器については不慣れなため今後の訓練メニューに挙げられる。また近隣住民への参加協力依頼など回覧版を活用できないものか模索もしている。訓練での気づきや課題、反省点などは速やかに改善され全員に周知している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格に合わせた声かけや介護を行っている。プライバシーに関しても他の人の前では個人情報をうっかり言わないように注意をしている。	1人1人の性格に合わせた声かけや介護を行っている。プライバシーに関しても他の人の前では個人情報をうっかり言わないように注意をしている。	入居して間もない頃は、事前の情報を確認しつつ同性によるケアも配慮している。接遇の研修もある。トイレや入浴の介助では羞恥心への配慮も必要となるが、ドアは閉める、周囲に見え難い立ち位置をとる等々、基本的なことをきちんと行っている。また個人情報の取り扱いに対する職員の意識は高く、事業所内に掲示される写真や居室の名札は入居時に承諾を得ている。業務上のやり取りであっても互いに声の大きさには注意を払っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話では、傾聴を中心に開かれた質問で対応している。また、本人が訴えやすい環境づくりにも心がけている。	日常会話では、傾聴を中心に開かれた質問で対応している。また、本人が訴えやすい環境づくりにも心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者のペースに合わせ、出来るだけ出来ることはしていただいている。	個々の利用者のペースに合わせ、出来るだけ出来ることはしていただいている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服・靴下まで利用者を選んでいただいたり、訪問カット時も仕上りの希望を尋ねたり、日頃より、利用者個々への支援に努めている。	着たい服・靴下まで利用者を選んでいただいたり、訪問カット時も仕上りの希望を尋ねたり、日頃より、利用者個々への支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の一人ひとりの好みやアレルギー・病歴を給食室に情報提供することでアナフィラキシーショックの予防や、嫌いなものを代替品で対応している。	利用者の一人ひとりの好みやアレルギー・病歴を給食室に情報提供することでアナフィラキシーショックの予防や、嫌いなものを代替品で対応している。	献立は法人の管理栄養士が考え栄養価も計っている。事業所内では炊飯と朝の味噌汁のみ用意され、主菜副菜は隣接する施設から届けられている。月に一度の外出では一人ひとりに好きなものを食べてもらい楽しみとなっている。なかなか箸が進まない利用者には隣に座り声掛け等で促し、介助は最小限に止め、出来るだけ自分で口へ運んでもらえるよう努めている。食が細かい場合の高カロリー食を常備したり、晩酌が出来ることも特長である。また誕生日は当日に祝い、ケーキも用意され家族が訪れることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、健康管理表へ記載し、日々の食事摂取量・水分摂取量の把握を行い健康管理に努めている。	毎日、健康管理表へ記載し、日々の食事摂取量・水分摂取量の把握を行い健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は本人の能力に合わせた介助にて口腔衛生・口腔ケアの支援を行っている。	食後は本人の能力に合わせた介助にて口腔衛生・口腔ケアの支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、オムツからリハビリパン・リハビリパンからトイレ・トイレ自立に向けた支援へ努めている。	利用者の排泄パターンを把握し、オムツからリハビリパン・リハビリパンからトイレ・トイレ自立に向けた支援へ努めている。	排泄に関して自立した利用者もいるが、任せたままでなくさりげなく見守っている。出来るだけ本人に任せ、外で待機しながら合図を待つ様子もみられた。入居後のケアにより改善した例もある。オムツやパット類の使用が減ることは自己負担の軽減にも繋がっている。トイレ内は広く、車椅子利用であっても余裕がある。便座の周りに可動式ひじ掛けや背もたれがあることは座位を保ちやすく自立を助けている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	給食室(管理栄養士)による食事・おやつ提供。施設全体で栄養バランスや栄養価に配慮されている。医師・看護師の指示の下、排便管理を行い便秘にならないように努めている。	給食室(管理栄養士)による食事・おやつ提供。施設全体で栄養バランスや栄養価に配慮されている。医師・看護師の指示の下、排便管理を行い便秘にならないように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本時間や曜日は決まっているが、希望されたり、失禁、失便で汚れてしまったときは随時入浴をおこなっている。	基本時間や曜日は決まっているが、希望されたり、失禁、失便で汚れてしまったときは随時入浴をおこなっている。	入浴は週2～3回を目途にしているが、希望があればその限りではない。拒む利用者には職員のテクニック等に対応し、ゆっくり湯船に浸かってほしいと願っている。入浴しない日でも着肌着の交換は行い、シャンプー類は各自が好みのもを用意している。浴室にはリフト浴の設備があり、職員の負担も軽減しつつ安全な入浴支援が可能となっている。冬場のヒートショックにも配慮し、衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ、見守りのケアである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息を促したり、昼夜逆転しないように、日中の活動支援(レクリエーション)行ったり、必要時は医師に相談している。	休息を促したり、昼夜逆転しないように、日中の活動支援(レクリエーション)行ったり、必要時は医師に相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の名前・効能・効果・用法・用量の情報をすぐに閲覧できる場所に内服一覧表を保管している。	職員は薬の名前・効能・効果・用法・用量の情報をすぐに閲覧できる場所に内服一覧表を保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設行事(慰問での踊り・歌・ピアノ演奏・喫茶・お茶会等)参加支援、毎日のレクリエーション 趣味支援 施設リハビリ参加支援。利用者個々に対するの楽しみごと、気分転換図っている。	施設行事(慰問での踊り・歌・ピアノ演奏・喫茶・お茶会等)参加支援、毎日のレクリエーション 趣味支援 施設リハビリ参加支援。利用者個々に対するの楽しみごと、気分転換図っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や友人へ「電話をかけたい」「家に帰りたい」「買い物に行きたい」と要望あれば、対応し、家族や職員と協力しながら支援を行っている。	家族や友人へ「電話をかけたい」「家に帰りたい」「買い物に行きたい」と要望あれば、対応し、家族や職員と協力しながら支援を行っている。	天候や体調をみながら広い敷地内での散歩は日常的に行っている。日差しを浴びることで五感の刺激にもなっている。車両が必要な時は事前の計画申請となるが、事業所内に飾られたスナップ写真からはみんなで出掛けた嬉しさも伝わってくる。図書館や買い物など個別に対応している外出もある。全く外へ出ないという利用者はいない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本本人もちのお金はお断りしている。もっておかないと不安な方に関しては数千円程度でおねがいしている。	基本本人もちのお金はお断りしている。もっておかないと不安な方に関しては数千円程度でおねがいしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればその都度対応している。切手やはがきも希望があれば準備している。	希望があればその都度対応している。切手やはがきも希望があれば準備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分や全居室は毎日掃除支援行い、清潔保持している。フローア、全居室すべて 室温・湿度管理行い、心地よく過ごしていただけるように支援している。	共有部分や全居室は毎日掃除支援行い、清潔保持している。フローア、全居室すべて 室温・湿度管理行い、心地よく過ごしていただけるように支援している。	利用者の動線上に通行を妨げる物はない。手を触れる箇所の消毒もこまめに行い、安心して暮らせるよう配慮している。換気には時折窓を開け、光はカーテンとブラインドで調整している。これは居室も同様である。廊下のスナップ写真からは利用者の日常が垣間見られ、価値観に沿った飾り付けである。風呂やトイレはきれいに掃除され、嫌な臭気はない。また年に一度はプロ業者によるワックス清掃も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席を変更したりして気の合う同士で出来るだけ交流ができるようにしている。	座席を変更したりして気の合う同士で出来るだけ交流ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものや思い出のものを持参していただいている。本人や家族と相談しながら、本人が心地よく過ごせるよう工夫している。	馴染みのものや思い出のものを持参していただいている。本人や家族と相談しながら、本人が心地よく過ごせるよう工夫している。	火気等の危険物以外に居室に持ち込む品物の制限はない。落ち着いて過ごせるよう思い思いに整えられている。家族の写真や誕生日の色紙が室内を明るくしている事や、傍らに置かれたお位牌などがその例である。作り付けのクローゼットがあることで収納や片付けもしやすくなっている。天気の良い日には毛布を干したり、自宅と同じように手間も惜しまない。穏やかに過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部分や全居室は毎日掃除支援行い、清潔保持している。フローア、全居室すべて 室温・湿度管理行い、心地よく過ごしていただけるように支援している。	共有部分や全居室は毎日掃除支援行い、清潔保持している。フローア、全居室すべて 室温・湿度管理行い、心地よく過ごしていただけるように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)				
※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない